

山元町立中浜小学校

2014年 11月 11日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)

北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

- (1)「震災を乗り越えてー山元町立中浜小学校のケースー」 <http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/12385.pdf>
- (2)「東日本大震災教職員が語る 子ども・いのち・未来」宮城県教職員組合(2012)明石書店

【場所】

海岸から100mほどの位置にある。
住所:宮城県亶理郡山元町坂元久根22-2
※現在は坂元小学校に併設して再開。

【東日本大震災による被害】

津波により2階建て校舎の2階天井付近まで浸水。



【震災当日の様子】

地震発生時、3年生以上は6校時の授業中、1・2年生は上級生と下校するために校庭で遊んで待っていた。

14時46分に大きな横揺れが起こり、テレビの情報を見ると津波到達予想時刻が10分後だったため、低学年の足で20分以上かかる2次避難所の坂元中学校への避難は諦め、校舎内避難を行った。この時災害無線は使えなかった。実際に津波が発生したのは15時40分であった。

テレビの津波情報で津波が5~10mであると報じられたため、屋上にある屋根裏倉庫に避難して津波をやり過ごした。その後校舎は孤立したが、翌朝自衛隊のヘリに発見され、全員救出された。(1)(2)

【調査して言えること】

学校の標高は約3mで、校舎は1.5mほど嵩上げされた土地に建っていた。海が近く、学校からも見える距離にあり、地震の際は津波を警戒して高い場所に避難する必要がある学校である。

しかし、学校の周囲に自然の地形で高い場所は無く、地図上で一番近い高台も500mほど離れており、津波到達予想時刻が10分しかない場合は避難先に選択することは難しい。

校舎は2階建ての2階天井まで浸水していたので、ぎりぎりのところで津波をやり過ごしたということがよく分かった。



北から見た校舎(2014/10/31撮影)



西から見た学校と海(2014/10/31撮影)



海(東)から見た校舎(2014/10/31撮影)